

電子情報システム工学専攻			アドバンスドコンピューティング				
学年	専攻科1年	担当教員名	林 裕樹				
単位数・期間		2単位	後期	週当りの開講回数	1回	専門共通・選択	学修単位1
授業の目標と概要		コンピュータで定型的な作業を効率良く実行できるように、GUI環境でのマウスによる操作ではなく、CUI環境での操作を修得することを目標とする。 コマンドシェルによって多数のファイルに対する連続操作を自動化するなど、CUI環境ならではの効率の良い作業の方法を学ぶ。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	c	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		プログラミングについての極基本的な事項を理解し、キーボードによる文字の入力をある程度できることが望ましい。					
到達目標		コマンドシェルが使える。 ファイルやディレクトリに対する操作ができる。 複数のコマンドを組み合わせたデータ処理ができる。					
成績評価方法		合否判定:すべてのレポートが提出され、かつ平均点が60点以上であること。 最終評価:すべてのレポートの平均点とレポートの提出状況等10%で総合評価する。					
テキスト・参考書		参考書:川口直樹著 入門ビジュアル・コンピューティング ここからはじめるUNIX (日本実業出版社)					
メッセージ		GUIとCUIのそれぞれの環境が持つ得手・不得手を知ること、コンピュータを更に便利な道具として扱えるようにしましょう。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
コマンドシェル環境の基本(1回) テキストエディタの使い方(1回) ディレクトリツリーとファイル操作(2回) さまざまなコマンド(1回) シェルスクリプト(2回) grep(1回)			基本的なコマンドシェルの使い方が分かる テキストエディタの使い方が分かる ディレクトリのツリー構造を理解する コマンドの調べ方や使い方が分かる 基本的なシェルスクリプトを作成できる grepを使った検索方法が分かる				
後期中間試験			実施しない				
awk(2回) ruby(3回) 総合課題(2回)			awkの基本とパターン駆動の操作が分かる rubyスクリプトの基本が分かる 必要な機能を持ったスクリプトを作成できる				
後期期末試験			実施しない				

電子情報システム工学専攻			アドバンスプログラミング				
学年	専攻科1年	担当教員名	柳川和徳				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	専門共通・選択	学修単位1
授業の目標と概要		CG 自動生成の実習を通じて、プログラミング能力(作業を自動化・省力化する能力、アイデアを実現・改善する能力)を修得する。 前半では、C 言語によるタートルグラフィックスを題材として、効率的なプログラミングの作法を理解するとともに、任意の線画の生成処理を効率良く記述する。 後半では、三次元 CG 記述言語 POV-Ray を利用し、複雑なシーンの生成処理を効率良く記述する。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	d-1-2	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		・実習では極力、GUI に頼らず、キーボード操作による作業を中心とする。したがって、本科目を受講するためには、最低限のタイピング能力が要求される。					
		・本科目は、CG の単なる作成を目的とするものではない。作業の効率化が目的である。CG は単なる手段(例題)にすぎない。					
到達目標		前半:任意の線画生成処理を効率良く記述できる。					
		後半:複数の任意形状からなる複雑なシーン生成処理を効率良く記述できる。					
成績評価方法		最終評価:自由制作1×50% + 自由制作2×50%					
		合否判定:最終評価 60%					
テキスト・参考書		教科書:担当教員オリジナル実習用ウェブページ					
		参考書:インターネット上の参考資料を随時提示する。					
メッセージ		プログラミング経験者へ: 未経験者の模範となるような成果物を披露できるよう、技術を研ぎましょ。					
		プログラミング未経験者へ: 積極的に実習に参加し、技術的な守備範囲を広げましょ。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
0. ガイダンス(1 回)			1.				
1. C 言語によるタートルグラフィックス(7 回) ・プログラミングの基礎: 制御構造(連接, 反復, 選択) ・プログラミングの効率化: 抽象化(関数, 再帰) ・自由制作1			・構造化プログラミングの概念を理解する。 ・タートルグラフィックスで任意の線画を効率良く記述できる。				
前期中間試験							
2. POV-Ray による 3D-CG(7 回) ・任意の形状のプログラミング (三次元座標, CSG) ・複雑なシーンのプログラミング (マクロ, 関数, 反復) ・アニメーション ・自由制作2			2. ・POV-Ray で任意の形状を記述できる。 ・POV-Ray で複雑なシーンを効率良く記述できる。				
前期期末試験							
後期中間試験							
後期期末試験							

電子情報システム工学専攻			インターンシップI				
学年	専攻科1年	担当教員名	電気工学科全教員・電子工学科全教員・情報工学科全教員				
単位数・期間		2単位	集中講義	週当りの開講回数	回	専門共通・必修	その他
授業の目標と概要		企業、官庁、国公私立大学および試験研究機関において、現場指導者の監督のもとに実務に参加し、実践的技術者となるための素養を磨く。また、技術に対する社会の要請、研究・設計・生産・試験・保守などの活動における知識や技術の必要性を認識し、これらの活動を公衆の健康・安全、文化、経済、環境、倫理の観点で考察すると共に自分の進路を考察する機会を持つこと。					
		釧路高専目標	B:50%,D:20%,E:20%,F:10%		JABEE目標	a,b,d-2-d,e,f,h	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		インターンシップは、受け入れ先に貴重な時間と労力を割いて頂いて実現するものである。このことを常に念頭に置き、社会人としてのマナー、技術者としての姿勢を学ぶことを心がけること。詳細はガイダンス、実施要綱による。					
到達目標		実体験を通じ、技術者としての素養を磨く(与えられた課題の解決を期間内に計画的に進めることができる。グループ作業において自分の役割を積極的に果たすことができる。)実社会における技術への要請、必要性を認識する(社会が要求する科学技術を認識できる。科学技術が社会に及ぼす影響を認識できる。)					
成績評価方法		「受け入れ先による実習評価(70%) + 実習報告書評価(20%) + 報告会でのプレゼンテーション評価(10%)」が60点以上、かつ「実習機関から提出される学外実習評定書の総合評価が普通(5段階評定の3に相当)以上」で合格である。					
テキスト・参考書		受け入れ先の指示に従う。					
メッセージ		インターンシップを通して、自分の適性を一層理解し、自分の将来の進路に役立ててください。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1) 受け入れ先機関提示およびマッチング 2) ガイダンス 3) 事前準備			1) 受け入れ可能な機関を提示し、希望調査・調整により受け入れ先を決定する。 2) インターンシップ参加者に対して、ビジネスマナー、企業秘密の遵守、通勤時および作業時の事故への対応など、一般的な注意事項の説明を行う。 3) 調整後に決定した期間の担当者に、各自が連絡をとり、実習内容、注意事項などの指導を受ける。				
前期中間試験							
4) 実習 5) 報告書の提出 6) インターンシップ報告会			4) インターンシップの実施中は、指導担当者の指示に従って行動する。ガイダンスで説明された、日報などを忘れずに作成する。 5) インターンシップ終了後、速やかに報告書を提出する。守秘義務を考慮しなければならない場合もあるので、注意する。 6) 実習内容、得られた成果など、インターンシップの経験を報告会において発表する。				
前期期末試験							
後期中間試験							
後期期末試験							

電子情報システム工学専攻			コンピュータ設計工学				
学年	専攻科1年	担当教員名	荒井 誠				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	専門共通・選択	学修単位2
授業の目標と概要		3DCAD (3Dimennsional Computer Aided Design) の発展に伴い、この情報応用技術を使って、多様な技術課題を分析し、問題を解決することが、エンジニアにとって必要不可欠なものとなった。そこで、本講義は、基礎的な知識や技術を統合した設計演習を通して、課題の探求ができ、解決する総合的な設計能力を養うことを目的とする。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	d-1-1	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		講義内容の主体は3DCAD システムの操作の熟知もあるが、創造的な設計能力を養うことを主眼している。すなわち、CAD とそのアプリケーションである各種シミュレーション機能をフルに利用した高度な利用方法について具体的な技術課題を基に授業を進める。					
到達目標		(1) 情報工学と設計に関する知識を十分に課題解決に活用できる。 (2) 力学や機構について、CAD を使ってシミュレートできる。 (3) 3D 橋梁モデルを構築し、解析ができる。					
成績評価方法		合否判定:各章毎に課せられる演習課題とCAD技術に関するレポートを課すのでこれらが全て期限内に提出されていることで合格対象とする。 さらに、演習課題の正誤とレポート評価により以下の総合評価とする。 最終評価:全レポート提出(60%) + レポート内容(40%)					
テキスト・参考書		テキスト:HTML 形式の自作テキスト 参考書:わが国で出版されている文献は皆無に等しい。PTC 社を始めとするURL を参照されたい。 推奨URL、 http://www.SDCpro.com/ または http://www.schroff.com/					
メッセージ		演習主体となるため、個人差が生じる場合もあるが、配布教材にじっくり取り組み、成果を身をもって体験できます。また、欠席による履修遅れは最終的な到達目標まで達しない場合もあるので、欠席しないこと、あるいは遅れを取り戻す努力が必要である。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1. 3D モデリング (3 回) 2. 2 次元図面化 (2 回) 3. CAE(ブーム要素) (2 回)				1. 3 次元モデルのモデリングとアセンブリができる。 2. 3D モデルから2 次元図面への変換ができる。 3. はり構造における曲げの解析を計算、シミュレーションができる。			
前期中間試験				実施しない			
4. CAE(溶接・熱伝達) (1 回) 5. メカニズムシミュレーション (3 回) 6. 3D 橋梁設計 (4 回)				4. 溶接部材、熱伝達解析ができる。 5. 複数の部品による機構シミュレーションができる。 6. 3 次元橋梁モデルを設計し、その検証ができる。			
前期期末試験				実施しない			
後期中間試験							
後期期末試験							

電子情報システム工学専攻			システム工学				
学年	専攻科1年	担当教員名	石山 俊彦				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	専門共通・必修	学修単位1
授業の目標と概要		今日、システムは我々の生活の隅々にまで存在している。一方で、システム構築のためのプロジェクトは大規模化し、管理することが困難になりつつある。システム工学を通して、工学的なアプローチの手法を身につけることを目指す。釧路高専教育目標:D (50%),E(50%)、JABEE目標:d-2-c, e, h					
		釧路高専目標	D:50%,E:50%		JABEE目標	d-2-c,e,h	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		簡単な計算をするので、電卓を用意すること。					
到達目標		・システムの概念を理解できる。 ・システム設計のための方法論を理解し、簡単なシステムを設計できる。 ・システムのモデリング、シミュレーションについて理解できる。					
成績評価方法		合否判定:定期試験の結果が60点以上であること。 最終評価:定期試験の結果(90%)とレポート、演習の結果(10%)の合計。					
テキスト・参考書		教科書:『システム工学』石川博章 共立出版社 参考書:『システム工学』古川正志、荒井誠、吉村斎、浜克己 コロナ社 参考書:『NASAを築いた人と技術』佐藤 靖 東京大学出版会					
メッセージ		工学におけるシステムとは何か、どのような手法で取り扱うかを学ぶ。授業を通して得られた知識や方法論をもとに、工学的な思考やプロジェクト遂行能力を身につけて欲しい。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1. システム工学の概要(1回) 2. システム計画、動的計画法(4回) 3. シミュレーション(3回)				・システム工学の概念を理解できる。 ・各種の解析技法を理解できる。 ・モデリング、シミュレーションについて理解できる。			
前期中間試験				実施しない			
4. システムの信頼性(2回) 5. 最適化技法(2回) 6. スケジューリングと演習(3回)				・システムの信頼性について理解できる。 ・最適化技法について理解できる。 ・各種のチャートを用いた計算ができる。			
前期期末試験				実施する			
後期中間試験							
後期期末試験							

電子情報システム工学専攻			ソフトウェアアーキテクチャ				
学年	専攻科1年	担当教員名	野口 孝文				
単位数・期間		2単位	後期	週当りの開講回数	1回	専門展開・選択	学修単位1
授業の目標と概要		オブジェクト指向は、大規模システム開発に欠かせない技術である。本講義では、オブジェクト指向言語smalltalkを通して、オブジェクト指向の概念、MVCアーキテクチャ、クラス、継承等について学ぶ。さらに、コンポーネントウェアについてその概念を学ぶ。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	d-1-2	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		本科で学んだプログラミングやコンピュータに関する知識を基礎とする。					
到達目標		オブジェクト指向の考え方を理解して、簡単なプログラムを作成することができる。					
成績評価方法		定期試験 100% 授業態度 ±10% 合否判定:定期試験の結果が60点以上 最終評価:定期試験の結果(100%)と授業態度(±10%)との合計					
テキスト・参考書		必要に応じて資料を配布する 教科書:Squeakプログラミング入門 ジーン・コリエネック他,菅原一孔他訳 星雲社 参考書:Squeak入門 Mark Guzdial, Kim Rose 編 軋音組訳 SiBaccess Meme Media and Meme Market Architecture Y.Tanaka Wiley Interscience					
メッセージ		オブジェクト指向の元祖であるSmalltalkを通して,オブジェクト指向の考え方を学んでほしい。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
授業のガイダンス・プログラミング言語(1回) オブジェクト指向の概念(2回) SmalltalkとSqueak Squeakの基本操作(1回) Squeakの文法(2回) クラスとインスタンスとメソッド 継承・多様性(1回)			プログラミング言語と機械語およびコンピュータのとの関係を説明できる。 オブジェクト指向の考え方を理解できる。 Squeakの簡単なプログラムを定義し、実行することができる。 Squeakにおけるクラスやメソッドをツールを使って参照することができる。				
後期中間試験							
MVCモデル メッセージモデル(2回) コンポーネントウェア コンポーネントウェアにおけるオブジェクト管理(3回) コンポーネントウェアの応用(3回)			オブジェクト間におけるメッセージの流れを説明できる コンポーネントを利用したプログラムを作成できる。				
後期期末試験							

電子情報システム工学専攻			ネットワーク工学特論				
学年	専攻科1年	担当教員名	戸谷 伸之				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	専門展開・選択	学修単位1
授業の目標と概要		コンピュータネットワーク技術は情報化社会における基盤技術として、様々な方面で応用され、その重要性を増している。本科目では基本から最新までのコンピュータネットワーク技術について広く概観し、これを構成する多様な技術の知識や基本的な原理について習得する。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		ノートを持参すること。					
到達目標		コンピュータネットワーク技術についての基礎知識を身につけている。コンピュータネットワーク技術についての基本的な原理を理解している。					
成績評価方法		合否判定：2回の定期試験の結果の平均点が100点満点で60点以上であること 最終評価：2回の定期試験の結果の平均点(100%)					
テキスト・参考書		教科書 配布資料によって行う 参考書 オーム社 新世代工学シリーズ コンピュータネットワーク					
メッセージ		コンピュータネットワークを構成するにあたって生じる諸問題とその解決方法について、具体的なイメージを持つよう心がけてください。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
ガイダンス(1回) コンピュータネットワーク(2回) ネットワークの構成(2回) ネットワークにおけるコンピュータの接続(2回)			・コンピュータによるネットワークの概念を理解できる。 ・ネットワークを構成するための要素となる技術を理解できる。 ・ネットワークにおけるコンピュータの接続法を理解できる。				
前期中間試験			実施する				
ネットワークモデル(3) ネットワークにおける各種サービスについて(2) 仮想ネットワーク(2)			・コンピュータネットワークにおける階層モデルを理解できる。 ・広帯域ネットワークにおける各種サービス実現のために用いられる技術について理解できる。 ・仮想ネットワーク構築における基礎知識を理解できる。				
前期期末試験			実施する				
後期中間試験							
後期期末試験							

電子情報システム工学専攻			パワーエレクトロニクス				
学年	専攻科1年	担当教員名	山田 洋明				
単位数・期間		2単位	後期	週当りの開講回数	1回	専門展開・選択	学修単位1
授業の目標と概要		電気機器制御，電力制御など産業分野で広く利用されているパワーエレクトロニクス技術の基礎を学習し，産業分野への応用例を理解する。 さらに，シミュレータを利用した回路設計や回路の解析方法を修得する。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		パワーエレクトロニクスは電子工学，電気工学を応用した技術分野であり，電気回路，制御工学，電子回路，論理回路の基礎知識を有することが望ましい。 毎回課題を出すので，レポートの提出を怠らないようにすること。 関数電卓は授業時に必ず持参すること。					
到達目標		パワーエレクトロニクス技術を用いた基礎的な回路の動作原理を説明することができる。 PSIM(Power electronics SIMulator)を用いてパワーエレクトロニクス回路を設計できる。 パワーエレクトロニクス技術の産業分野への応用例を理解している。					
成績評価方法		合否判定:2回の試験の平均点が60点以上であること 上記の条件を満たした者に対して，下記により最終評価を決定する。 最終評価:試験(70%)+レポート(30%)					
テキスト・参考書		[教科書] 野村弘，藤原憲一郎，吉田正伸:「PSIMで学ぶ基礎パワーエレクトロニクス」，電気書院，2007 [参考書] 金東海:「パワースイッチング工学」，オーム社，2003 堀孝正:「パワーエレクトロニクス」，オーム社，1996					
メッセージ		パワーエレクトロニクスは，自然エネルギーを用いた発電やモータの制御など電気機器の高効率化には欠かせない技術となってきました。 授業を通して，基礎的な知識を習得しましょう。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
前期中間試験							
前期期末試験							
1. パワーエレクトロニクスとは何か (1回) 2. パワー半導体デバイスの基本特性 (1回) 3. 電力変換の基礎知識 (1回) 4. ダイオード整流回路 (1回) 5. サイリスタ整流回路 (1回) 6. 計算機シミュレータPSIMの使用法 (1回) 7. 降圧チョップパ回路の動作原理と制御 (1回)				1. パワーエレクトロニクスとは何か理解している。 2～3. 電力変換とは何か理解している。 4～5. 交流から直流への電力変換の方法を理解している。 6. PSIMを用いた簡単な回路設計および解析ができる。 7. 降圧チョップパ回路の動作原理を理解している。			
後期中間試験				実施する			
8. 昇圧チョップパ回路の動作原理と制御 (1回) 9. チョップパ回路の設計 (1回) 10. インバータとは何か (1回) 11. 単相電圧形インバータの動作原理 (1回) 12. 単相電圧形インバータの制御法 (1回) 13. インバータ回路の設計 (1回) 14. 障害電流とその補償 (1回) 15. 産業分野への応用例 (1回)				8. 昇圧チョップパ回路の動作原理を理解している。 9. チョップパ回路の設計ができる。 10～12. インバータの動作原理を理解している。 13. インバータ回路を設計できる。 14. パワーエレクトロニクスの使用による障害とその補償法を理解している。 15. パワーエレクトロニクスの産業分野への応用例を理解している。			
後期期末試験				実施する			

電子情報システム工学専攻			プラズマ工学				
学年	専攻科1年	担当教員名	佐々木 敦				
単位数・期間		2単位	後期	週当りの開講回数	1回	専門展開・選択	学修単位1
授業の目標と概要		物質の第4の状態である、プラズマについての知識を習得する。プラズマの物理的・化学的性質や発光現象について理解する。プラズマは蛍光灯やエレクトロニクスをはじめとする種々の工業に広範囲に应用されており、これらの応用についても理解する。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		高電圧工学分野における、粒子の衝突過程、気体の放電現象に関する知識が必要である。					
到達目標		(1) プラズマの性質が理解できる。 (2) プラズマの発生原理が理解できる。 (3) プラズマの応用技術について理解できる。					
成績評価方法		合否判定: 2回の定期試験の平均点が60点を超えていること。 最終評価: 2回の定期試験の平均点とする。					
テキスト・参考書		教科書: プラズマエレクトロニクス 著者: 菅井秀郎 発行所: オーム社 参考書: 高電圧工学 著者: 植月唯夫他 発行所: コロナ社 参考書: プラズマエレクトロニクス 著者: 真壁利明 発行所: 培風館					
メッセージ		本科で学んだ気体放電現象の基本は、復習的に教授する。プラズマの発生および応用に関しては、主に現象論に重点をおいて授業展開する。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
1. 粒子の衝突 (2回) 2. 原子の励起と電離 (1回) 3. 分子の励起・解離・電離 (1回) 4. 放電によるプラズマの発生 (3回)			1. 衝突断面積, 平均自由行程について理解する。 2. 原子の内部エネルギー, 電離について理解する。 3. 分子の内部エネルギー, 衝突について理解する。 4. タウンゼント, ストリーマ理論を理解する。				
後期中間試験			実施する				
5. 各種放電プラズマ (4回) 6. プラズマの応用 (3回)			5. グロー放電等による低温プラズマを理解する。 アーク放電等による熱プラズマを理解する。 6. LSI製造, プラズマディスプレイ, オゾナイザ等のプラズマ応用技術の原理を理解する。				
後期期末試験			実施する				

電子情報システム工学専攻			応用解析学				
学年	専攻科1年	担当教員名	池田 盛一				
単位数・期間		2単位	後期	週当りの開講回数	1回	一般・選択	学修単位1
授業の目標と概要		複素関数の扱い方や微分法・積分法に関する基本的な考え方を理解し、理工系分野への応用への基礎知識を養う。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	c	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		授業の説明をきちんとノートし、指示された問題をあとで自分で解いて理解を深めることが重要である。					
到達目標		教科書の問題の60%を解くことができる。					
成績評価方法		定期試験の平均点で評価する(100%)。 試験成績が60 点以上の場合、レポート提出などを10%までの範囲で加減する。					
テキスト・参考書		教科書:『複素関数の基礎』寺田文行 著 (サイエンス社)					
メッセージ		授業の内容を理解するには復習が欠かせない。 授業のあった日は必ず自分で類似の問題を解いて、理解を深めておくことが必要である。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
0. ガイダンス(1 時間) 1. 複素数平面(4 時間) 複素数と複素数平面, 極形式 2. 1 次変換(3 時間) 1 次分数関数, 一般の1 次変換の分解 3. 正則関数(6 時間) 複素関数, 正則関数, C - R 方程式, 等角写像性			・複素数の演算の幾何学的意味が理解でき, 基本的な計算ができる。 ・1 次変換を通して複素関数の写像としての理解ができる。 ・関数の正則性を理解し, 基本的な関数の複素微分ができる。				
後期中間試験			実施する				
4. 複素初等関数(4 時間) 指数関数, 三角関数, 対数関数, 無理関数 5. 複素積分(6 時間) 定積分とその性質, 積分路のとり方 6. コーシーの定理とその応用(6 時間) 線積分, コーシーの定理, 留数, 極			・複素初等関数の定義を理解し, その導関数および写像としての性質を調べることができる。 ・複素数平面上の曲線に沿っての線積分を理解し, その計算ができる。 ・コーシーの定理を理解し, 留数の計算や定積分の計算ができる。				
後期期末試験			実施する				

電子情報システム工学専攻			科学技術表現法				
学年	専攻科1年	担当教員名	山田 昌尚				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	専門共通・選択	学修単位1
授業の目標と概要		技術者は、優れた研究や開発を行っても、それが具体的かつ説得力のある技術報告や学術論文として上司や学会に認められない限り成果とならない。本科目は、効果的な技術報告や学術論文を作成するために必要な文章技術の習得を目標としている。					
		釧路高専目標	A:5%,E:10%,F:85%		JABEE目標	b,d-2-b,f	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		・国語辞典(常用漢字表記のあるもの)を用意すること ・本科目では、4回の講義時間を使って試験を行う。この試験も技術文章作成の訓練の一部であるから十分準備して取り組むこと					
到達目標		・「常用漢字限定」など基本的なルールにもとづいた文章を作成できる ・作図力学にもとづいた図面作成ができる					
成績評価方法		合否判定:「4回連続試験の成績 - 欠席点(5点/回) + 演習問題集10点」が60点以上を合格とする (4回連続試験の方法とその評価については初回の講義で説明する) 最終評価:合否判定に同じ					
テキスト・参考書		教科書:「知的な科学・技術文章の書き方」,中島利勝ほか,コロナ社 「知的な科学・技術文章の徹底演習」,塚本真也,コロナ社 参考書:					
メッセージ							
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
オリエンテーション(1回) 作図(2回) プレゼンテーション技術(1回) 文章作成法(4回)				・作図力学にもとづいた図面作成ができる ・技術文書のルールにもとづいた文章を作成できる			
前期中間試験				実施しない			
技術者倫理(1回) 実験計画法(1回) 試験(4回) 試験の解答・解説(1回)				・論文や技術文書を書く際の倫理について説明できる ・計画的な実験の方法について説明できる			
前期期末試験				実施する			
後期中間試験							
後期期末試験							

電子情報システム工学専攻			機能デバイス工学				
学年	専攻科1年	担当教員名	石山 俊彦				
単位数・期間		2単位	後期	週当りの開講回数	1回	専門展開・選択	学修単位1
授業の目標と概要		DVD録画機や携帯電話などの電子機器の心臓部を構成するダイオードやトランジスタの動作原理や電気特性、回路の動作特性について理解する。また、太陽電池、発光ダイオード、半導体レーザなど、近年、急速に発展している光デバイスについても取り扱う。釧路高専教育目標:C, JABEE:d-1-3					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	d-1-3	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		本講義では、量子統計工学などの知識を必要とするので、上記の授業内容を確認しておくことと良い。					
到達目標		ダイオード、トランジスタ、光デバイスなどの基本的な素子の動作原理を理解する。各種のデバイスの動作が物理法則と、どのように関連しているかを理解する。					
成績評価方法		合否判定:定期試験の結果が60点以上であること。 最終評価:定期試験の結果(90%)とレポート、演習の結果(10%)の合計。					
テキスト・参考書		教科書:『図説 電子デバイス』菅博 他、産業図書 参考書:『Physics of Semiconductor Devices』S. M. Sze, Wiley-Interscience					
メッセージ		IC、LSIを構成するトランジスタの構造や動作原理を学ぶことで、ブラックボックスである集積回路を理解することができる。また、太陽電池や半導体レーザなど、デバイスの将来展望についても触れる。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
前期中間試験							
前期期末試験							
1. 授業のガイダンス(1回) 2. 半導体中のキャリア(3回) 3. 接合(3回)				・半導体工学の基礎を理解できる。 ・半導体中のキャリアの振る舞いについて理解できる。 ・接合の基本原理とダイオードの特性を理解できる。			
後期中間試験							
4. トランジスタ(4回) 5. 集積回路の構造と動作(1回) 6. 機能デバイスの今後の展開(3回)				・トランジスタの動作原理、電気的特性を理解できる。 ・基本的な集積回路の電気的特性を説明できる。 ・機能デバイスの将来展望を理解できる。			
後期期末試験				実施する			

電子情報システム工学専攻			技術者倫理				
学年	専攻科1年	担当教員名	神谷昭基、岩淵義孝、藤本一司				
単位数・期間		2単位	後期	週当りの開講回数	1回	一般・必修	学修単位1
授業の目標と概要		技術者が社会に貢献するために、技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および世界における文化や価値観の多様性を理解し、技術者が社会に対して負っている責任を果たせるようになる。					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標	b	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		授業では、よく知られている技術者倫理に関する典型的な問題を取り上げると同時に、技術や環境に関わるリアルタイムの社会問題を感度よくキャッチできるように関心を持ち続けるための調査課題を与え、発表する。					
到達目標		技術者倫理の視点を理解し、そこから事例分析を通して、問題解決の方法を模索できる。					
成績評価方法		課題・レポートとプレゼンテーションにより総合評価。					
テキスト・参考書		教科書：『技術者倫理の世界』（藤本温他著、森北出版） 『倫理学への助走』（藤本一司、北樹出版） 参考書：『科学技術者倫理の事例と考察』（米国NSPE倫理審査委員会編、丸善）					
メッセージ		発言や討論に積極的に参加し、また他者を納得させる質の高いレポートの作成を期待しています。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
倫理とは何か(3) 技術者倫理と倫理の関係(2) 倫理的分析の実践(2) 専門職の倫理とパターナリズム(2)			共同体を存続させる倫理の意味を理解できる。 技術者倫理を支えるエートスを理解できる。 技術者個人責任と企業責任を理解できる。 技術者のパターナリズムの欠点を理解できる。				
後期中間試験			実施しない				
安全性と「受け容れ可能なリスク」(2) フォード・ピント事件～倫理学の三理論(2) ギルベイン・ゴールド～内部告発(1) 地球的視野をもつ技術者の倫理(1)			リスクへの対処法や技術者の役割が理解できる。 技術者が組織のなかでどう判断し行動できるか理解できる。 組織の中の技術者が倫理的に行動する手段や責任が理解できる。 異文化による倫理観の差異を理解できる。				
後期期末試験			実施しない				

電子情報システム工学専攻			計測工学特論				
学年	専攻科1年	担当教員名	松本 和健				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	専門展開・選択	学修単位1
授業の目標と概要		この科目では、本科で学習した計測工学、電磁気学、応用物理、信号処理などの知識に基づいて、信号と誤差の統計的な扱い、信号と雑音の物理的な性質や時空間における性質とその処理方法といった基礎的な事項の理解を深めてもらう。また、計測システムの設計を、資料調査や演習課題を通じて修得してもらう。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		広範囲に応用され、多くの計測手法がある最近の電子計測の技術の中から、一つのトピック的な計測技術を取り上げる。電気電子工学、情報工学で学んできた事、特に電気回路、電磁気学、計測工学信号処理の知識を元にして、不確かさの少ない信頼できる計測について学ぶ。					
到達目標		一つのトピックの基礎的な事項から信号伝送やデジタル処理も含めた専門分野との関連を通して、物理的な現象をいかに信頼できる信号や数値に変換するかといった電子計測の本質的で基礎的な知識を理解してもらう。計測技術に関する設計能力を身につけてもらう。					
成績評価方法		定期試験(年一回)[50%]、輪講と発表会[20%]、実験レポート「30%」 上記項目を総合して100点満点とし最終評価とする。合否判定は最終評価が60点以上で合格とする。 遅進学生、成績不振者に対して、適宜、課外の補習及び再試験を行う。					
テキスト・参考書		参考書：電気電子計測、新妻弘明他(朝倉書店)、バイオマグネトロニクス、渥美和彦他(オーム社)、 SQUID Sensors: Fundamentals and Applications, Harold Weinstock ed. (Kluwer Academic Publishers)					
メッセージ		今年度は、生体の電磁界信号の計測をトピックとして取り上げる予定です。この分野の計測では、比較的S/N比の確保が困難な分野になります。トピックとして取り上げた技術を理解することによって、様々な計測分野に応用できるような力を修得することを期待します。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1. 信号源(1回) 2. 雑音(1回) 3. 雑音の時間的、空間的性質(2回) 4. 電磁気量の測定(1回) 5. 信号処理(1回) 6. システムの周辺技術(1回)			後半のトピックで取り上げる計測技術で各自が議論するために必要な基本的知識に関連する、信号と雑音の物理的性質と解析的な取り扱い方、技術的処理方法の関連について理解する。				
前期中間試験							
7. トピックで用いられるセンサ(2回) 8. トピックで用いている計測技術(2回) 9. 輪講(2回) 10. トピックに関連した実験計画と計測実験(2回)			トピックとして取り上げる計測技術を理解した後、これに基づいて最近の動向を英文で調査し発表する、自分自身で簡単な計測応用を設定して設計し、計測実験してもらう。				
前期期末試験			実施する				
後期中間試験							
後期期末試験							

電子情報システム工学専攻			情報数学特論				
学年	専攻科1年	担当教員名	大槻 典行				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	専門共通・選択	学修単位1
授業の目標と概要		情報通信分野で利用される基礎数学を理解する。情報倫理と情報セキュリティに関する問題の中で、特に暗号に焦点を当て、暗号と数学の密接な関連性を理解し、情報数学の知識を修得する。暗号に用いられる数学的なものの考え方や証明を行うことによって、原理を理解すると共に、基礎知識を修得し、それらを実践で有効に活用できる能力を身につける。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	d-1-2	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		高専1学年から3学年までの数学の基礎を理解していることが必要。演習問題を解くときに電卓が必要。演習問題集が2回の講義に対して1つ与えられるので、解答した演習問題集は、提出期限内に提出すること。					
到達目標		情報技術で使う数学が情報処理分野、通信分野などの現場で実用的に利用できる。					
成績評価方法		合否判定: 期末試験の点数が60点以上。 最終評価: 期末試験の点数9割、演習問題の評価1割					
テキスト・参考書		教科書: 暗号 - ネットワーク社会の安全を守る鍵 -, 笠原正雄, 共立出版社 参考書: 現代暗号の基礎知識, 黒澤馨, コロナ社, 暗号理論, 伊藤正史, ナツメ社, やり直しのための工業数学, 三谷政昭, CQ出版社,					
メッセージ		専門的な基礎知識を必要としないので、本科3年生までの数学の知識で十分履修が可能です。(微分・積分は使いません)					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
・暗号の役割(1回) ・基礎数学(4回) ・公開鍵暗号(2回) ・デジタル署名(1回)				・情報社会における暗号の重要性および必要性について解説できる。 ・暗号理論に必要な整数論を理解し、効率の良い算法を利用することができる。 ・公開鍵の原理を理解し、平文の暗号化、暗号文の平文化ができる。 ・公開鍵の原理を応用した電子署名について解説できる。			
前期中間試験				実施しない			
・素因数分解問題(2回) ・ID情報に基づく暗号技法(3回) ・秘密鍵暗号(2回)				・公開鍵方式の暗号で重要な要素となる素因数および素因数分解に関する問題を理解し、解説できる。 ・近年、重要視されている暗号技法の一つであるID情報に基づく技法について理解し、解説できる。 ・秘密鍵暗号の原理とその重要性について理解し、実際に応用できる。			
前期期末試験				実施する			
後期中間試験							
後期期末試験							

電子情報システム工学専攻			信号画像処理II				
学年	専攻科1年	担当教員名	佐治 裕				
単位数・期間		2単位	後期	週当りの開講回数	1回	専門展開・選択	学修単位1
授業の目標と概要		ディジタル画像処理の基本となるアルゴリズムを確認し、C言語を用いて応用プログラムが作成できる様にする。このために画像処理の基本となる理論とアルゴリズムを説明し、実習課題を通して応用についての理解を深めてもらう。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		C言語についての知識は必須である。また、簡単な画像処理についてのプログラム経験があることが望ましい。					
到達目標		ディジタル画像処理の基本的手法が説明できる。各種のアルゴリズムのプログラム化ができる。 また、応用のためのプログラムが書ける。					
成績評価方法		定期試験2回の成績の平均点60点以上で合格とする。最終評価は平均点7割課題3割で評価する。					
テキスト・参考書		テキスト:使用しない。(プリントと板書による) 副読本:井上他著「C言語で学ぶ実践画像処理」(オーム社) 参考書:酒井幸市著「ディジタル画像処理入門」(CQ出版)					
メッセージ		アルゴリズムの応用に主眼を置いて講義を進めるので、基本的な原理やアルゴリズムについては予め理解しておいてください。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
前期中間試験							
前期期末試験							
1. ガイダンス(1回) 2. 基本的画像処理の手法(2回) 3. カラー画像の性質(2回) 4. カラー画像の処理(2回)				1. 講義の概要を知り、使用するコンピュータシステムでpnm形式の画像ファイルの処理や表示ができる。 2. 輝度変換、強調、平滑化等の処理プログラムが書ける。 3. 色彩情報の性質とカラー画像の処理について説明でき、プログラムが作成できる。 4. 色彩情報を利用して、特定の領域を抽出したり、色を変えたりする手法を説明できる。これらのプログラムを作成できる。			
後期中間試験				実施する			
5. フーリエ変換と直交変換(3回) 6. 画像データの圧縮(2回) 7. 2値画像の処理(2回) 8. 投影からの断面像再構成(1回)				5. フーリエ変換や他の直交変換の性質を説明できる。画像処理への応用ができる。 6. 画像データの圧縮の手法とアルゴリズムが説明できる。 7. 画像の2値化の手法および輪郭の抽出や特徴パラメータ抽出のアルゴリズムを説明できる。 8. 断面投影定理によって断面像を直接FFTを用いたり、畳み込みによって再構成する原理を理解する			
後期期末試験				実施する			

電子情報システム工学専攻			人工知能特論				
学年	専攻科1年	担当教員名	神谷 昭基				
単位数・期間		2単位	後期	週当りの開講回数	1回	専門共通・選択	学修単位1
授業の目標と概要		この科目では、計算機の知能化を目指す専門的な構成技術の一つとして強化学習について授業を行う。強化学習は、状態、行動と報酬という簡潔なアルゴリズムにより構成されながら、環境との相互作用により、未知な環境においても最適な行動を学習できる特徴から、自律エージェントの意思決定システムとして適している。この授業では、強化学習の基本的なアルゴリズムの理解と応用できることを期待する。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		本授業は確率統計とコンピュータプログラミングを基礎知識とする。理解を深めるため、合計約6回の演習レポートを宿題として与えられる。					
到達目標		強化学習の原理を理解し、学習アルゴリズムを作成できることを到達目標とする。					
成績評価方法		最終成績＝定期試験100点＋レポート10点 1)定期試験60点未満ではレポートを最終成績に加減算せず不合格点とする。 2)定期試験60点以上ではレポートによる加減算は60点以上100点以下とする。 3)レポート100点の場合、最終成績+10点で加点し、0点の場合、-10点で減点する。					
テキスト・参考書		教科書：強化学習、三上貞芳、皆川雅章訳、森北出版 参考書：マルチエージェント学習ー相互作用の謎に迫るー、高玉圭樹著、コロナ社 参考書：学習とそのアルゴリズム ニューラルネットワーク・遺伝アルゴリズム・強化学習、電気学会GA ニューロを用いた学習法とその応用調査専門委員会、森北出版					
メッセージ		1) ノートを必ず取ること。 2) 課題は必ず理解し、日限までに提出すること。 3) 教科書・ノート・課題を必ず勉強すること 4) 勉強をしても不明点は教員室まで聞きに来ること。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1)ガイダンス、シラバス、強化学習の基礎と構成要素(1回) 2)目標、報酬、収益、価値関数の定義(2回) 3)マルコフ決定過程(2回) 4)動的計画法(3回)				1)強化学習の基礎と構成要素を理解できる。 2)目標、報酬、収益、価値関数の定義を理解できる。 3)マルコフ決定過程を理解できる。 4)動的計画法を理解でき、アルゴリズムを書ける。			
前期中間試験				実施しない			
1)モンテカルロ法(2) 2)TD法(2) 3)Q学習アルゴリズム(3回)				1)モンテカルロ法を理解し、アルゴリズムを書ける。 2)TD法を理解し、アルゴリズムを書ける。 3)Q学習を理解し、アルゴリズムを書ける。			
前期期末試験				実施する			
後期中間試験							
後期期末試験							

電子情報システム工学専攻			数値計算特論				
学年	専攻科1年	担当教員名	荒井 誠				
単位数・期間		2単位	後期	週当りの開講回数	1回	専門共通・選択	学修単位2
授業の目標と概要		工学では、広く身の回りに生じる事象を捉え、その問題を明確かつ具体的に解析することが重要な要素となる。数値解析特論では、簡単な関数から数値積分微分を解くに至るまでの数値計算処理の方法論を解説するとともに、科学技術計算ソフトウェアMATLABを用いて、物理現象のモデル化を図り、目的に応じたシステムを構築し工学的な問題の解決を図る能力を育成する。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	d-1-2	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		行列操作や線形連立方程式の解法に関しては充分理解していることを、前提に演習主体の講義構成とする。講義内容は、英文テキストを基に、これまでに培った工学知識を復習して講義に臨むことを望みます。					
到達目標		具体的な工学問題を例示し、その解法への考え方やシステム化について理解し、問題向けに解法システムを設計できる。					
成績評価方法		合否判定は、単元毎に課す演習レポートが全て期限内に提出されていることを前提に、期末試験の結果が60 点を超過していることで合格とする。 最終評価: 期末試験の結果(90%) + 演習レポート(10%)					
テキスト・参考書		教科書: Webテキスト http://www.mathworks.com/ :「INTRODUCTION TO MATLAB/SIMULINK」 参考文献: 高井信勝「MATLAB 入門」工学社 青山貴伸他「使える！MATLAB」講談社					
メッセージ		演習主体となるため、個人差が生じる場合がありますが、配布教材にじっくり取り組み、成果を身をもって実感できます。そのため、欠席による遅れは最終的な到達目標まで達しない場合もあるので、欠席しないこと、あるいは遅れを取り戻す努力が必要です。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
前期中間試験							
前期期末試験							
1. An Introdtion (2 回) 2. MATLAB Enviroment (2 回) 3. MATLAB Functions (3 回)				1. MATLAB の基本的な用法を理解する。 2. 行列計算などの数値計算に必要な基本操作ができる。 3. MATLAB の数学関数や制御関数を利用できる。			
後期中間試験				実施しない			
4. Matrix Computations (2 回) 5. Symbolic Mathematics (2 回) 6. Numerical Techniques (2 回) 7.An Overview of SIMULINK(2 回)				4. 応用として線形連立方程式を解くことができる。 5. シンボル代数を使って数値解を求めることができる。 6. 線形補間や積分、微分を解くことができる。 7. グラフィカル拡張ツールSIMULINKの基本的な操作ができ、簡単な制御シミュレーションを実行できる。			
後期期末試験				実施する			

電子情報システム工学専攻			制御工学特論				
学年	専攻科1年	担当教員名	千田 和範				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	専門共通・選択	学修単位1
授業の目標と概要		制御工学特論では、機械系で重要な自由振動モデルを基に、制御系CADを用い解析法および制御系設計・シミュレーション技法の理解を目的とする。 授業は講義とPCを用いた実習を平行して行う。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	d-1-1	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		基本的ではあるが、重要な物理現象を扱うため、関連分野の基礎知識を有していること。 また、解析を行う上で、微分方程式などの数学の基礎知識を必要とするので各自復習しておいて欲しい。 なお、機械・電気・電子・情報の学生は本科でも制御工学を学んでいるため、各自1回					
到達目標		物理も出るから数学モデルを記述できること。 制御系CADを用いて簡単な制御系設計およびシミュレーション技法を修得する。					
成績評価方法		定期試験100%, 自宅学習・課題・口頭発表±10% 合否判定: 定期試験の結果が60点以上 かつ、課題レポートの締切日までにすべてのレポートを提出確認を受けること 口頭発表を最低1回は行っていること。					
テキスト・参考書		教科書: 短期集中: 振動論と制御理論 工学系の数学入門 吉田 勝俊, 日本評論社 参考書: 機械力学<1> 線形実践振動論 井上順吉, 松下修己 理工学社					
メッセージ		問題の解法を単に丸暗記するのではなく、制御系の概念や表現方法など制御工学の基礎となる重要な点を確実に理解し、応用できる力を身につけて欲しい。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
0. オリエンテーション 1. 振動論, 制御工学導入と制御用CA (1回) 2. 自由振動モデル (2回) 3. 固有値解析 (2回) 4. 無次元化 (2回)			自由振動モデルについて理解し、その応答波形を制御系CADを使い可視化できる。 自由振動モデルの固有値とその応答の関係について理解でき、固有値解析を行える。 自由振動を抽象化し無次元パラメータを導入できる。それに関連して、各減衰応答の特徴を理解できる。				
前期中間試験							
5. 強制振動モデル (2回) 6. スケール変換 (1回) 7. 周波数応答と伝達関数 (2回) 8. 応用問題演習 (2回)			強制振動モデルについて理解し、その応答波形を制御系CADを使い可視化できる。 スケール変換により強制振動モデルの正規化が行える。 周波数応答の導出と、共振現象について理解できる。 固有方程式と伝達関数の関係について理解できる。 固有値からシステムの安定性を判別できる。 ラプラス変換を用いて、字湯振動、強制振動の解を導出できる。				
前期期末試験			実施する				
後期中間試験							
後期期末試験							

電子情報システム工学専攻			設計支援システム				
学年	専攻科1年	担当教員名	千葉 忠弘				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	専門共通・選択	学修単位2
授業の目標と概要		現在設計図書は、ほぼ全てCADデータ化している。設計の初期段階(構想段階)も次第にペーパーレス化しつつある。そこで本講義は、まず支援されるデザインの 本質 について述べる。続いて仮想現実における設計手法に関して、モデリング中心に講義する。さらにネットワークを用いたコラボレーション設計、CLAS、データ交換などについても言及する。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	d-1-1	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		基本的なCG技術に関して学習するので、専門知識は必要としない。Freeware のCGソフトを中心に利用するので、各自のパソコンにインストールすることが可能である。5つの課題の提出を予定している。課題提出が履修の条件である。					
到達目標		デザインとは何かを理解できること。 さまざまなモデリング手法を理解できること。					
成績評価方法		合否判定は定期試験で行う。 最終成績は定期試験70%、課題30%で評価する。 (全課題の提出が合格の条件である)					
テキスト・参考書		参考書: デザイン論(岩波講座 田中央著) 参考書: デジタルイメージクリエーション(CG - ART協会) 参考書: デジタル映像表現(CG - ART協会)					
メッセージ		デザインすることの本質を理解してほしい。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
デザインとは何か(工学におけるデザイン論)(2回) モデリングの概念、建築設計におけるモデリング、(0.5回) CAD設計について(0.5回) CGのなかのモデリングの理解(2回) 優れた既製デザインのモデリング作成(2回)(インダストリアルデザイン/建築空間)				デザインとは何か理解できる。 モデリングとは何かを理解できる。 2次元CADと3次元CADの違いを理解できる。 CGのなかのモデリングを理解できる。 優れた既製デザインのモデリングができる。			
前期中間試験				実施しない			
複雑な形状のモデリング(1回) カメラ、光源について(1回) 基本的なレンダリング技法と演習(2回) 構想段階のモデリング演習(2回) コラボレーションによるデザイン(1回) CLASについて(0.5回) データの標準化について(0.5回)				形や樹木のモデリング手法が理解できる。 CGのカメラ設定、光源設定が理解できる。 レイトレースの方法と性質を理解できる。 コンセプトづくりからモデリングを作成できる。 コラボレーション設計の特性と事例を理解できる。 CLASの基礎知識と仕組みを理解できる。 データの形式と互換性、標準化について理解できる。			
前期期末試験				実施する			
後期中間試験							
後期期末試験							

電子情報システム工学専攻		総合英語					
学年	専攻科1年	担当教員名	片岡 務				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	一般・必修	学修単位1
授業の目標と概要		本授業では、英検準2級、TOEIC 400 点レベルの論理的に記述された英文を読み、その意味内容を的確に読み取れる読解力、単語熟語力、英文法力を強化することで、英語を使ったプレゼンテーション、コミュニケーションを行なうための基礎能力を養成する。本授業は、科学技術に焦点を当てた文章の読解を中心とし、適宜文法の説明を加えながら展開していく。適宜、英検準2級の練習問題を行なう。					
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標	f	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		・あらかじめ指名した学生に、授業で自訳を発表してもらう形で授業を進めていくが、指名した学生はもちろん、それ以外の学生についても予習は不可欠である。 ・なお、指名された学生は授業日の前日正午までに、自訳をメールまたは直接片岡まで提出すること。アドレスは kataoka@ippan.kushiro-ct.ac.jp である。					
到達目標		英検準2級、TOEIC 400 点レベルの英文を読み、的確にその意味内容を読み取ることができる。					
成績評価方法		実用英語技能検定準2級またはその上位級の取得、工業英語検定3級またはその上位級の取得、TOEIC 400 点以上のスコアの取得、のいずれかひとつの基準を満たした者についてのみ、合否判定および成績評価を行なう。合否判定: 期末試験の得点で60 点以上を合格とする。成績評価: 合格者について、提出された和訳および授業での発表内容を±10 点の範囲で点数化し、期末試験の得点に加算減算して、その点数を最終評					
テキスト・参考書		Our Home the Earth (現代の科学と地球環境) 成美堂					
メッセージ		かなりのスピードで読み進めていくので、全員が必ず予習をして授業の臨むこと。なお、英検準2級、工業英検3級、TOEIC 400 点の条件のいずれにも達していない学生については、適宜開催する補習に参加したり、自学自習することで条件を満たすことができるよう大いに努力すること。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
第1週 ガイダンスおよび実力テスト 第2週 テキスト Unit 1, 2 第3週 テキスト Unit 3, 4 第4週 テキスト Unit 5, 6 第5週 テキスト Unit 7, 8 第6週 テキスト Unit 9, 10 第7週 英検準2級練習問題 第8週 テキスト Unit 11, 2			与えられた英文の意味内容を的確に読み取ることができる。 " " " " " 与えられた各設問の正答に至るプロセスを理解できる。 与えられた英文の意味内容を的確に読み取ることができる。				
前期中間試験			実施しない				
第9週 テキスト Unit 13, 14 第10週 テキスト Unit 15, 16 第11週 テキスト Unit 17, 18 第12週 テキスト Unit 19, 20 第13週 テキスト Unit 21, 22 第14週 まとめ、総復習 第15週 期末試験			与えられた英文の意味内容を的確に読み取ることができる。 " " " " "				
前期期末試験			実施する				
後期中間試験							
後期期末試験							

電子情報システム工学専攻			総合英語				
学年	専攻科1年	担当教員名	片岡 務				
単位数・期間		2単位	後期	週当りの開講回数	1回	一般・選択	学修単位1
授業の目標と概要		・本授業は、前期の「総合英語」の継続授業として、「総合英語」で読んだテキストよりもややレベルの高いテキストを読み進め、読解力、単語熟語力、英文法力を強化し、そのことによって英語を使ったプレゼンテーション、コミュニケーションを行なうための基礎能力の確立を図る。 ・本授業は、前期同様、科学技術に焦点を当てた文章の読解を中心とし、適宜文法の説明を加えながら展開していく。					
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標	f	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		「総合英語」と同様に、あらかじめ指名した学生に授業で自訳を発表してもらう形で授業を進めていく。指名された学生が、自訳を授業日前日の正午までにメールまたは直接片岡まで提出するのも同様である。					
到達目標		英検2級レベルの英文を読み、的確にその意味内容を読み取ることができる。					
成績評価方法		・期末試験の得点で、60点以上を合格とする。 ・合格者については、提出された訳および授業での発表内容を±10点の範囲で点数化し、定期試験の得点に加算減算して、その点数を最終評価とする。ただし、最終評価の点数は60点～100点の範囲に収まるものとする。					
テキスト・参考書		未定					
メッセージ		全員が予習してくることが不可欠である。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
第1週 ガイダンス 第2週 未定 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週							
後期中間試験			実施しない				
第9週 未定 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 期末試験							
後期期末試験			実施する				

電子情報システム工学専攻			電子情報システム工学特別ゼミナール				
学年	専攻科1年	担当教員名	野口 孝文				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	専門展開・必修	学修単位3
授業の目標と概要		特別研究に関連した文献調査、プレゼンテーション技術を修得し、企業の指導者からの講義及び企業の指導者との討論を通じて、地域の産業や社会の抱える課題やそれに対処するために必要な能力(計画性など)を修得することを目的とする。文献調査に関しては、各自、与えられたテーマに従って調査し、その内容を発表することにより、特別研究のための調査技術、プレゼンテーション技術の修得を目指す。					
		釧路高専目標	B:20%,D:60%,G:20%		JABEE目標	a,b,d-2-d,e,g,h	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		電子ジャーナルによる論文調査、ネットを利用した情報収集、図書館の利用、などさまざまな手法によって、必要な情報を収集・分析し、さらにそれらをまとめて発表する。また、発表後の質疑応答に対応する。さらに、周辺・境界領域の知識や地域の産業や社会の抱える課題とそれに対処する能力を修得する。 これらの作業は特別研究における自分の研究作業のための訓練として重要である。					
到達目標		適切な方法により効率的な論文検索ができる。 適切な方法により効率的な情報収集ができる。 調査結果を適切に発表できる。 地域の産業や社会の抱える課題それに対処するために必要な能力の理解ができる。					
成績評価方法		文献調査プレゼンテーション(複数教員)(60%) 文献ディスカッション参加(20%) 企業講義レポート評価(20%)					
テキスト・参考書		各指導教員の指示による					
メッセージ		情報収集や地域または社会課題の理解は特別研究において重要なことである。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
1)ガイダンスの実施 2)特別研究に関連した文献調査テーマの決定 3)特別研究に関連した文献調査			与えられる文献調査テーマに従って、文献調査できる。				
後期中間試験			実施しない				
1)特別研究に関連した文献調査結果の発表と討論 2)企業指導者による地域または社会の抱える問題とその対処に必要な能力に関する講義			1)文献調査結果を説明でき、質問に対して適切に回答できる。 2)文献調査発表のディスカッションに参加できる。 3)地域または社会の抱える問題とそれに対処するための必要な能力を理解し、それをレポートにまとめることができる。				
後期期末試験			実施しない				

電子情報システム工学専攻			電子情報システム工学特別研究				
学年	専攻科1年	担当教員名	野口 孝文				
単位数・期間		6単位	通年	週当りの開講回数	2回	専門展開・必修	学修単位3
授業の目標と概要		研究の遂行を通して高度な専門知識や実験技術を修得し、継続的に学習する能力を育成する。研究・設計などの活動における知識や技術の必要性を認識する。さら、研究遂行において修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、計画的に実行する能力、論文作成・研究発表により文章表現力、プレゼンテーション、コミュニケーション能力を育成する。					
		釧路高専目標	B:10%,D:25%,E:0%,F:10%,G:15%		JABEE目標	d-2-b,d-2-c,d-2-d,e,f,g	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		特別研究は本科の卒業研究を含む3年間、あるいは、専攻科の2年間をとうして一つの課題に取り組むものであり、長期間にわたる。指導教員の指示だけでなく、自発的に計画的に遂行することに心がけること。					
到達目標		論文調査などにより、研究の背景、社会のニーズなどを理解できる。課題解決を計画的に遂行できる。研究成果の社会への影響を考察できる。日本語による論理的な報告書作成とプレゼンテーション、英語による概要説明ができる。					
成績評価方法		特別研究は2年間にわたるため、別紙の評価方法によって全体を評価する。 1年目では評価を決定しない。 別紙評価方法に従い、60点以上で合格である。					
テキスト・参考書		各指導教員の指示による					
メッセージ		長期にわたり、一つのテーマを追求するので、自発的な学習、創造性の発揮、計画的な遂行が重要である。指導教員との話し合いを密にし、定常的な学習・研究が必要である。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1 研究計画の検討・立案 2 文献調査				研究計画の立案ができる。 文献を調査し、内容を理解できる。			
前期中間試験				実施しない			
3 文献調査				文献を調査し、内容を理解できる。			
前期期末試験				実施しない			
5 実験装置の基本設計または理論計算とシミュレーション				文献を調査し、内容を理解できる。 実験装置の基本設計または理論計算とシミュレーションができる。			
後期中間試験				実施しない			
6 実験装置の設計・製作 7 予備実験および実験装置の改良				実験装置の設計・製作・実験ができる。			
後期期末試験				実施しない			

電子情報システム工学専攻			電子情報システム工学特別実験					
学年	専攻科1年	担当教員名	機械工学科全教員（奇数年度：丹 国夫，荒井 誠，田中孝二郎，麓 耕二，高橋 剛，小杉					
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数		1回	専門展開・必修	学修単位1
授業の目標と概要		“ものづくり”におけるデザイン能力とは単なる設計図制作ではなく、「必ずしも解が一つでない課題に対して、種々の学問・技術を統合して、実現可能な解を見つけ出してゆくこと。」である。この授業では、提示されたテーマに対して、実現可能な解を見つけるため、問題意識を持って自由な発想で設計、制作を行い、プレゼンテーションを通して、成果を発表できるエンジニアデザイン能力を育成する。						
		釧路高専目標	D:20%,E:80%		JABEE目標	d-2-b,d-2-c,e,h		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		専門基礎知識に裏付けされた“ものづくり”設計・制作を完遂するためには、各項目で行われる授業の準備と復習が必要である。また、設計とプレゼンテーションでは情報技術が必要とするので、自学自習を十分行うこと。						
到達目標		専門分野で履修してきた基礎的な知識を基に、課題分析能力を身につける。 自発的に計画・遂行でき、問題の解決策を見出すことができる。 複数人による協調作業を行うことで、コミュニケーション能力を養う。 成果を論理的にまとめ、報告書としてまとめることができる。						
成績評価方法		合否判定:最終評価に同じ 最終評価:計画書、設計図および最終報告書の評価(70%)+製作物の評価(20%) +プレゼンテーション(10%)						
テキスト・参考書		各項目ごとに適宜参考プリントおよびテキストを配布する。						
メッセージ		ものを発想して制作するまでの、一連のプロセスならびに各プロセスにおける基礎専門については、それぞれの項目で説明するが、作品を制作するためには自由な想像力、計画・問題解決能力やコミュニケーション能力が必要である。						
授 業 内 容								
授業項目			授業項目ごとの達成目標					
前期中間試験								
前期期末試験								
1.ガイダンス，テーマ説明とグループ分け(1回) 2.ものづくりのための基礎講義(3～4回) 3.ものづくりのための基礎設計作業(2～3回) 4.中間発表，討論(1回)			テーマおよび達成目標が理解することができる。 ものづくりに必要な基礎知識を習得し、理解することができる。 ものづくりに必要な基礎知識を用いて、グループワークで基礎設計をすることができる。 中間発表，討論により基礎設計の問題点などを見出すことができる。					
後期中間試験			実施しない					
5.製品制作のための基礎講義(0～1回) 6.製品制作作業(3～4回) 7.報告書作成作業，発表会準備(2回) 8.成果発表会，報告書提出(1回)			製品制作に必要な基礎知識を習得し、理解することができる。 製品制作に必要な基礎知識を用いて、グループワークで製品制作をすることができる。 プレゼンテーションツールなどを利用してグループワークで報告書作成，発表会準備をすることができる。 設定目標への到達度，課題などの現状分析を明確することができる。					
後期期末試験			実施しない					

電子情報システム工学専攻			電磁気学特論				
学年	専攻科1年	担当教員名	松崎 俊明				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	専門展開・選択	学修単位1
授業の目標と概要		クーロンの法則からマクスウェル方程式までオーソドックスに進むが、以下の2点を目標とする。 (1)数理的な理解と直感的な理解を結びつける (2)実際の機器や数値計算法等にどのように応用されているかを理解する					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	d-1-4	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		ベクトル・微積分といった数学の基礎知識が必要である。 授業の度に基礎的な計算演習を課すので、参考書などを手がかりにして翌週までに提出すること。					
到達目標		・電磁気学に関する諸法則に関する基本問題が解けるようになる。 ・ベクトルや微積分等の数学的概念を直感的なアナロジーで説明できるようになる。					
成績評価方法		合否判定:期末試験において正答率60%以上を合格とする。 最終評定:試験9割,演習課題1割					
テキスト・参考書		教科書:単位が取れる電磁気学ノート(橋本淳一郎,講談社サイエンティフィック) 参考書:詳細電磁気学演習(後藤憲一,山崎修一郎共編,共立出版) 電磁気学 , (バーガー,オルソン共著,培風館)					
メッセージ		教科書は独習し易いものを選定したので、必ず一読してから授業に挑むこと。 また、演習課題を解くことを通してしっかりと復習して欲しい。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
01.序論・クーロンの法則 02.ガウスの法則 03.電位(ポアソン方程式) 04.導体(静電遮蔽,胸像法) 05.コンデンサーと静電エネルギー 06.誘電体 07.定常電流と磁場				ベクトル表記を用いてクーロンの法則の計算が出来る。 ガウスの法則を用いて電場を求めることが出来る。 電位と電場の関係が理解できる。 導体やその周辺の電位や電場を求めることが出来る。 コンデンサーの基本公式を自在に用いることが出来る。 誘電体がある場合の電場を求めることが出来る。 電流が作る磁場を計算することが出来る。			
前期中間試験				実施しない			
08.様々な計算例 09.ローレンツ力 10.変化する電磁場(2回) 11.マクスウェル方程式と電磁場(2回) 12.まとめと最近のトピック(2回)				電磁場中における計算手法を理解する。 磁場中の電荷に働く力を計算することが出来る。 電場と磁場の相互作用が理解できる。 マクスウェル方程式から電磁場の存在を導き出せる。 講義を踏まえて、身の回りの現象を議論出来る。 FDTD法の基本的な考え方を説明出来る。			
前期期末試験				実施する			
後期中間試験							
後期期末試験							

電子情報システム工学専攻			統計学				
学年	専攻科1年	担当教員名	澤柳 博文				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	一般・選択	学修単位1
授業の目標と概要		記述統計を理解し、データの処理をできるようにする。また、確率、確率分布、母集団と標本について理解し、おもに母平均について統計的推定と検定のしかたを学ぶ。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	c	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		電卓					
到達目標		教科書の問、演習問題の7割が自力でできる。					
成績評価方法		中間・期末の2回の試験の平均点で評価する。平均点が60点を超えた場合は、授業態度、レポート点などを基準の範囲内(+・10%)で加味する。					
テキスト・参考書		工科の数学 確率・統計 田代嘉宏著 (森北出版)					
メッセージ							
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1.記述統計(4回) 度数分布、平均・分散、相関 2.確率(4回) 場合の数、確率、確率分布、二項分布、正規分布			・データを度数分布表に表し、平均や分散の計算ができる。相関の意味がわかり、相関係数を求める事ができる。 ・場合の数、確率が求められる。確率変数と確率分布、期待値、分散を理解し、正規分布表が使える。				
前期中間試験			実施する				
3.統計的推定・検定(7回) 標本平均と中心極限定理、母平均の推定・検定、母平均のt推定・t検定			・中心極限定理を理解して、正規分布を用い母平均の推定・検定ができる。また、標本数が少ない場合にt分布を用いた推定・検定ができる。				
前期期末試験			実施する				
後期中間試験							
後期期末試験							

電子情報システム工学専攻			日本語表現技法				
学年	専攻科1年	担当教員名	館下 徹志				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	一般・必修	学修単位1
授業の目標と概要		課題に即した口頭発表と相互批評によって、日本語による効果的な説明の技法を学ぶとともに、他者とのコミュニケーション能力を高め、表現と討論の作法や手法を実践的に身につけることを目標とする。					
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標	f	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		発表課題は社会的な事象を素材とするので、日頃から社会の状況に目を配り、見識を広め、また深める努力をしてほしい。					
到達目標		・論理的思考内容を効果的な資料提示とともに口頭発表することができる。 ・他者の言語表現を公平な観点から批評することができる。 ・討論の作法や手法が理解し、それを実践できる。					
成績評価方法		口頭発表・討論を含む言語表現の内容(40%)、試験の成績(40%)、レポート・確認シート等提出物の内容(20%)により評価する。合否判定はこれに同じ。					
テキスト・参考書		テキスト:教材プリント(授業時に配布する) 参考書:『おとなの小論文教室。』(山田ズーニー著 河出書房新社) 『論理ノート』(D.Q.マキナニー著 水谷淳訳 ダイアモンド社)					
メッセージ		効果的なコミュニケーション能力が問われ、評価される時代である。まじめに、巧みに、柔軟に、多様な反応を示す他者たちと共に心地よく生きる術を身につけたい。演習形式の授業にも積極的に参加して、その技法を学ぼう。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1. コミュニケーション能力と論理性(3回) 2. 口頭発表と質疑応答(5回)				1. 言語による対人関係作りの要諦が解り、実践できる。 2. 資料提示とともに効果的な口頭発表ができる。 発表に対して建設的な質問や批評ができる。			
前期中間試験							
3. 言語マナーの諸相(2回) 4. 討論(5回)				3. 礼儀正しい日本語の運用法が解り、実践できる。 4. 討論のきまりに則った効果的な発言ができる。 その場に応じた適切かつ効果的な応答ができる。			
前期期末試験				実施する			
後期中間試験							
後期期末試験							

電子情報システム工学専攻			品質工学				
学年	専攻科1年	担当教員名	渡邊 聖司				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	専門共通・選択	学修単位1
授業の目標と概要		品質工学は、工学的な問題解決の一手法として、従来の考え方とはまったく異なる新しい学問である。汎用性も高く、科学的かつ系統だった技術開発・製品開発を行うために製造業を中心とする各企業において多用されている。この科目の目標は、品質工学の手法を演習を通して学び、その計算や評価方法を修得し、工学的な問題に応用し、解決できる能力を身につけることである。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		演習の解説中、不明な点や疑問点などは積極的に質問をして欲しいと思います。 電卓を使う機会もありますので忘れずに。					
到達目標		品質工学の手法を理解できる。 品質工学の計算方法や評価方法を理解できる。 各自の研究分野に品質工学の手法を応用し、利用できるようになる。					
成績評価方法		合否判定:レポートの評価の平均が60点を超過していること。 最終評価:レポートの評価の平均(80%) + 授業態度(20%) レポートの評価:特優:100～90点, 優:80～89点, 良:70～79点, 可:60～69点, 不可:59点以下(提出遅延, 1日につき3点減点)					
テキスト・参考書		テキスト:自作プリント(資料, 演習問題), 参考書:おはなし品質工学 改訂版(日本規格協会・矢野 宏著), 入門タグチメソッド(日科技連・立林和夫著), やさしい「タグチメソッド」の考え方(日刊工業新聞社・矢野 宏著), やさしく使える「タグチメソッド」の計算法(日刊工業新聞社・矢野 宏著), 実践 タグチメソッド(日科技連・渡部義晴編著), はじめての品質工学(日本規格協会・矢野耕也著)					
メッセージ		自作プリントを中心に演習を行ないます。 各自の積極的かつ建設的な取り組みを常に求めています。 疑問点や不明な点は必要に応じて講義中やオフィスアワーを利用して質問してください。病欠などにより講義を欠席した場合は、各自で自学自習するなど考えて行動してください。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1.ガイダンス (1回)			講義内容の説明, 成績評価方法と, 品質工学の成功事例などを理解することができる。 品質工学の考え方を理解することができる。 システムのとらえ方, 因子(パラメータ)の分類, 静特性と動特性を理解することができる。 静特性のパラメータ設計を理解することができる。 動特性のパラメータ設計を理解することができる。				
2.品質工学の考え方 (2回)							
3.品質工学のパラメータ設計 (4回)							
前期中間試験			実施しない				
4.品質工学におけるパラダイムシフト(2回)			従来の技術開発の問題点, 技術開発に必要な「先行性, 汎用性, 再現性」の確保, パラメータ設計とナレッジマネジメントなどを理解することができる。 バーチャルシミュレータを用いて, 普通のエンジニアの仕事の進め方を学ぶことができる。 バーチャルシミュレータを用いて, 進んだエンジニアの仕事の進め方を学ぶことができる。 バーチャルシミュレータを用いて, 機能性評価を学ぶことができる。 バーチャルシミュレータを用いて, システムの最適化を学ぶことができる。				
5.品質をはかる (1.5回)							
6.品質をはかる (1.5回)							
7.機能性の評価(1.5回)							
8.システムの最適化(1.5回)							
前期期末試験			実施しない				
後期中間試験							
後期期末試験							

電子情報システム工学専攻			並列分散処理				
学年	専攻科1年	担当教員名	本間宏利				
単位数・期間		2単位	後期	週当りの開講回数	1回	専門展開・選択	学修単位 1
授業の目標と概要		並列コンピュータのアーキテクチャやその動作原理を理解し、並列プログラムを設計するため の並列アルゴリズム技法を習得する。 現存する並列計算モデルや並列処理システムについて理解を深め、並列アルゴリズム の解析演習を行う。また、並列ブロードキャストアルゴリズムや並列選択アルゴリズム、並列プレ フィックス演算の記述を行なう。					
		釧路高専目標	習得し並列アルゴリズムの記述を行なう。	JABEE目標	d-2-a		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		基本的な逐次方計算機アーキテクチャの原理、OSの知識、および、初等的なアルゴリズムと計算量解析の知識を要する。グラフ理論の知識があればなおよい。					
到達目標		・並列・分散処理方式と逐次処理の相違点を理解する。 ・逐次、並列アルゴリズムの解析と評価を行える。 ・問題の分析と並列アルゴリズムの設計を行える。					
成績評価方法		最後に実施する試験の成績で行う。 試験の結果(100%)					
テキスト・参考書		参考書: 並列分散処理入門 渋沢進 培風館 参考書: 分散アルゴリズム 亀田恒彦 近代科学社					
メッセージ		計算機アーキテクチャと基本的なアルゴリズムについて知識が必要。 グラフ理論の知識があればなおよい。 講義はプロジェクターを用いて行う。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
1. 並列処理の必要性(2) 2. 逐次アルゴリズムの計算量解析(4) 3. 逐次アーキテクチャによる並列処理(4) 4. 並列計算モデル フラインの分類(2) 5. 共有メモリ 相互結合ネットワーク(2) 6. 並列アルゴリズムの表現(2)			1. 並列処理の応用例やその必要性を理解する。 2. オーダ記号によるアルゴリズム評価、計算量解析ができる。 3. パイプライン制御について理解できる。 4. 並列計算モデルの分類を理解する。 5. 密結合並列計算機の結合方式を理解する。 6. 並列アルゴリズムの記述法を理解する。				
後期中間試験			実施しない				
7. 並列ブロードキャストアルゴリズム(2) 8. 並列総和アルゴリズム(2) 9. 並列アルゴリズムの評価 効率性、最適性(2) 10. 並列プレフィクス計算 SUM MAX MIN(4) 11. 並列選択アルゴリズム(2) 12. 並列ソーティング(2)			7. 並列ブロードキャストアルゴリズムを理解できる。 8. 総和を求める並列アルゴリズムを設計できる。 9. 並列アルゴリズムの計算量解析と評価ができる。 10. 並列プレフィクス計算を理解し、設計できる。 11. 並列選択アルゴリズムを設計できる。 12. バイトニックソーティングを理解できる。				
後期期末試験			実施する				

電子情報システム工学専攻			量子統計工学				
学年	専攻科1年	担当教員名	坂口 直志				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	専門展開・選択	学修単位1
授業の目標と概要		電子材料の性質を理解するには、材料を構成する原子や分子の性質と集合状態並びに電子の振る舞いを理解することが必要となる。本科目は量子力学の基礎を学習し、原子・分子とそれらの集合体の相互作用と統計現象などを理解する。半導体を中心とした電子材料に応用するため、PN接合構造を使った基礎的な半導体デバイスの動作及び電気的特性を理解する。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		授業中に演習を実施するので、電卓等を用意すること。 半導体工学や、電子材料の基礎的内容が必要となるので、この知識があることが前提となります。					
到達目標		電子材料の、基礎的量子現象及び統計の考え方を学び、代表的量子現象の考察ができる。それを応用した電子デバイスの特性を理解し基礎的な電気特性を計算できる。					
成績評価方法		合否判定 2回の定期テストの平均点が60点(100点満点)を超えていること 最終評価 2回の定期テストの平均点が80%と演習等の平均点20% (テストの平均が60に満たない場合は、点数が満たされないテスト範囲(授業範囲)で再試験を行うこともある。)					
テキスト・参考書		教科書 裳華房 基礎物理選書 統計力学 参考書 裳華房 統計熱物理学 裳華房 基礎物理選書 量子力学 配布プリント					
メッセージ		講義はプロジェクターを使用することが多く、配布資料に沿って行います。また、配布資料が多くなるので、それを綴じるファイルを用意してください。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1、授業ガイダンス(1回) 2、量子力学の基礎(4回) (1)シュレーディンガーの波動方程式 (2)フェルミエネルギーと状態密度関数 3、半導体材料の電気的性質(3回)				・量子力学の基礎を学び、代表的な量子現象が理解できる。 ・波動方程式の基礎的な計算ができる。 ・半導体の基礎的電気特性を説明できる。 ・半導体デバイスの基礎的電気特性を計算できる			
前期中間試験				実施する			
4、気体の運動(3回) 分子の衝突 ボルツマン方程式 輸送現象の基礎 5、力学と確率(3回) 確率の概念 量子力学と確率 まとめ(1回)				・気体の運動の基礎的性質を理解できる。 ・ボルツマン方程式の基礎を理解し、それを使った基礎的計算ができる。 ・確率の概念を復習し、量子力学と確率の関係の基礎的計算ができる。			
前期期末試験				実施する			
後期中間試験							
後期期末試験							